

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!

潮 騒

14周年
フォーラム
特集



今年のテーマ

「共存、共生、歩み寄り」

2019

11

「公開市民講座」(仮称)に 取り組みます

東京潮騒JTC施設長のノビさんと
栗原センター長▶



過日、地元紙の茨城新聞に全6回(7月21日～8月25日)にわたって掲載された記事に、私はくぎ付けになりました。それは「薬物依存症の診察室から」と題し、埼玉県立精神医療センター副病院長の成瀬暢也(のぶや)医師へのインタビューをまとめた記事でした。私は以前に成瀬先生の講演を拝聴したことがあります。日本では数少ない依存症治療に取り組む精神科医であり、常に患者に寄り添って心を開かせようと努力する先生の医療姿勢に深い感銘を抱き、一度は鹿嶋にお招きして直接話を聞きたいものだと秘かに考えていました。

その記事で成瀬先生は、依存症を犯罪としてではなく文字通り病気としてとらえることの重要性を訴え、背景には当事者の心に癒されない深い傷や生きにくさがあり、回復のためには仲間と居場所が必要だと力説されていました。芸能人らへの激しいバッシング報道にみられるように、薬物事件を犯罪だとして当事者を厳罰主義で排除し、自己責任を求めるだけでは回復の道は閉ざされてしまいます。成瀬先生は、寛容さを失い、厳罰主義に傾く社会の空気に違和を唱え、欧米に広がりつつあるハームリダクション(注:薬物使用による健康や社会・経済上のダメージを防ぐ新たな依存症政策)の考え方を支持し、薬物が違法か否かを問わず、当事者の生きにくさと生活そのものを支援することが大事だと主張していました。これこそ、私たちが取り組んでいる活動そのものであり、私は百万の味方を得た気分になりました。そこで、ぜひ成瀬先生を鹿嶋に呼ぼうと具体的なアクションを起こし、依存症問題に取り組む各分野の専門家に人脈のある旧知の近藤恒夫さん(日本ダルク代表)を通じて成瀬先生に連絡を取ってもらい、先生から「うまく日程が合えばOK」との返事を頂きました。

今回準備を進めている成瀬先生の講演を手始めとして、私はこのような問題意識を反映した息の長い市民活動の企画を、潮騒独自の形で取り組みたいと考えています。時あたかも潮騒ジョブトレーニングセンター(JTC)が取り組む「子ども食堂」(しおさい寺子屋食堂たんぼぼ)の準備が本格化しており、私の中には潮騒JTCも地域貢献につながるこうした独自企画を実現するだけの体力がついてきた、という自覚と自信が生まれています。この企画では、地域で暮らす生きにくさを感じている人たちや家族、支援者、医療・行政・福祉施設・教育関係者らにも広く参加・協力を呼び掛けたいと思っています。私たちが依存症を通して見えてきた「孤立と孤独」という、先行き不安の時代が生み出している社会病理(依存症・引きこもり・不登校・虐待など)にスポットを当て、これらの課題解決に向けてそれぞれの持つ力をコラボレーションできたら、この地域における素晴らしい社会資源となります。夢物語かもしれませんが、私たちに与えられた居場所(潮騒JTC)における回復の取り組みの成果を、この企画を通して地域に還元したいと考えます。そのためには各分野における専門家の力をお借りしたいのです。きっかけとなる成瀬先生の講演の日取りはまだ未定ですので、決まり次第本紙やチラシなどで広く広報し、一人でも多くの市民の方に参集して頂けたらと考えています。(センター長 栗原 豊)



「共存、共生、歩み寄り」

NPO 法人・潮騒 JTC は 10 月 20 日、地元の鹿嶋勤労文化会館（鹿嶋市宮中）で「共存、共生、歩み寄り」をメインテーマに、設立 14 周年を祝う公開フォーラムを開催しました。今年のハイライトは、「地域における依存症の回復支援のあり方」をテーマとする夢のコラボレーションが実現したパネルディスカッションです。潮騒 JTC と直接あるいは間接的に関わりを持っていたいいる関係機関の代表者とアディクト（依存症）の当事者であり、NPO 法人・潮騒 JTC の理事長である栗原豊センター長に加え、特別参加した元タレントのマーシー（田代まさし氏）が、それぞれの立場から公開で初めて意見を述べ合う有意義な取り組みになりました。

恒例となった講演会には、「日本ダルク」創設者の近藤恒夫代表と渋谷ダルクの坪倉洋一代表が応援のメッセージを届けてくれました。潮騒 JTC の活動などを紹介するプロモーションビデオ（PV）の上映やアディクトの仲間や家族が回復や夢・希望などを語る「仲間の話」がプログラムに組み込まれたほか、「マーシーと愉快的仲間たち」では、潮騒芸能部の仲間たちがステージショーで会場を盛り上げました。「エイサー祭り」では、潮騒 JTC のエイサー隊「鹿嶋琉球太鼓」と首都圏 3 市で活躍する各ダルクのエイサー隊が演舞を披露。一糸乱れぬ勇壮で見事なパチさばきを見せ、来場者を楽しませました。

今月号は、潮騒 14 周年のフォーラムにフォーカスして掲載しました。



潮騒 JTC 理事長の栗原センター長が開会を宣言して第一部のフォーラムが始まりました。続いて潮騒 JTC の仲間たちやスタッフ、職員が出演するPVが上映され、普段知ることのない仲間たちの生活や活動などが紹介されました。「仲間の話」では、女性ハウス「るみの家」施設長でセンター長の妻・ルミさんが、登壇する4人を紹介。アディクトから職員になったリョウさんは、ギャンブル依存状態から救ってくれた妻や母、そして手を差し伸べてくれた潮騒 JTC への感謝を述べました。昨年のフォーラム壇上で息子・カイトさんと涙の再開を果たした「るみの家」で生活するアキラさんは、その後を振り返りながら一挙に縮まった17年間の戸惑いを吐露。壇上のカイトさんも思春期であるが故にすれ違う母子の微妙な胸の内を語りました。最後に登場したのは、高齢者介護施設「デイサービス百寿」で仕事をするのんさん。薬物依存による逮捕歴を振り返りながら、会えないままの子ども2人との再会への思いや関係修復などを話しました。

潮騒の墓完成発表会では、栗原センター長と協力いただいた増古四郎さん(NPO法人・潮騒理事)が、潮騒 JTC の菩提寺「鹿嶋山地蔵院」(同市志崎)に建立した仲間たちの終の棲家となる潮騒合葬墓を紹介し、御協力いただいた方々に感謝とお礼を述べました。第一部最後のプログラムは、潮騒エイサー隊「鹿嶋琉球太鼓」の仲間たちと飛び入りで参加した「千葉ダルク琉球

太鼓」3人が沖縄芸能のエイサーを披露し、来場者を感動させました。

昼食を挟んだ第二部は、来賓のあいさつでスタート。招待された関係機関の代表ら5人が登壇し、お祝いの言葉をいただきました。その後、再びPVが上映され、栗原センター長と原田雅也事務長が潮騒食堂「おらげのかまど」の2階に完成した「しおさい寺子屋食堂たんぼぼ」の概要を説明しました。トークセッションでは、司法・行政・福祉・教育など、日頃お世話になっている各分野の代表者5人のほか、栗原センター長と飛び入りで参加したマーシーがパネリストで登壇。「デイサービス百寿」代表のマコトさんをコーディネーターに、それぞれの立場から意見を述べ合いました(詳細は5ページ)。講演では、潮騒 JTC と深い関わりを持つ同法人理事で渋谷ダルク常務理事の坪倉洋一氏が紹介されて壇上に上がり、「アディクトの仲間へ回復する幸せな後ろ姿を見せ続け、次の仲間へ手渡してほしい」とセンター長にメッセージを贈りました。続いて潮騒 JTC の名付け親でもある近藤恒夫氏が講演。「負の連鎖による低学歴が起因となっている多くのアディクトには、学び直しが必要だ」との考えを述べ、文科省管轄外の「しおさい寺子屋大学」を作ろうと提案。大学進学を目指すセンター長に敬意を払いながら、「薬物問題一番の解決法は孤立を避け、いい仕事に就くことだ」と語りました。

ステージショーの「マーシーと愉快な仲間たち」では、マーシーと潮騒芸能部のメンバーらが創作したコミカルなショートコントで大爆笑。フィナーレは、「鹿嶋琉球太鼓」のエイサー隊と千葉、川崎、相模原の各ダルクから応援に駆けつけてくれたエイサー隊のメンバー約35人による勇壮な合同演舞。舞台や客席でエイサーが披露されると大きな太鼓の音が館内を震わせて響き渡り、会場は最高潮に盛り上がりました。

最後のあいさつをした栗原センター長は「ご来場された方々と地域の皆様のご理解のたまものによってフォーラムが開催できました。引き続きご支援をお願いします」と感謝の言葉を述べ、閉会しました。(岩)



フォーラム初のパネル討論

潮騒14周年公開フォーラムでは初の試みとして、「地域における依存症の回復支援のあり方」をテーマに日頃からNPO法人・潮騒JTCと深い関わりを持つ関係機関の方々から直接意見を伺う特別ディスカッション(パネル討論)が試みられました。パネリストとして▽田内真紀氏(鹿嶋市保健センター所長)▽新山絹子氏(茨城県潮来保健所保健指導課長)▽綿引久一郎氏(法務省水戸保護観察所統括保護観察官)▽安重洋介氏(弁護士・神栖法律事務所長)▽岡田朋紀氏(茨城県立鹿島灘高校生徒指導部長)―にご登壇頂き、当事者側からは▽田代まさし氏(日本ダルクスタッフ)が加わり、▽栗原豊センター長が各意見を受けコメントしました。コーディネーター役は▽加勢誠・潮騒JTCグループ戦略室長(高齢者デイサービス事業所「百寿」代表)が務め、約70分にわたり濃密で貴重な意見が交わされました。



最初に加勢室長から「潮騒は鹿嶋の地に根を下ろして10数年になるが、まだよく知られていないのが実情」との現状認識に立ち、依存症の治療と回復のための居場所として多様な入寮者を受け入れている潮騒JTCの課題を浮き彫りにし、地域で必要とされる施設となるために、課題解決に向け専門職の方々から意見を求めたい、とする企画意図が説明されました。

この日は、①(各団体の)潮騒との関わり②潮騒が社会資源の一つとして認められるための課題③潮騒に求められる今後の役割と活動内容―についてパネリストが意見を述べ合いました。①では、各パネリストが所

属機関の活動を説明しながら地域で当事者活動を展開する潮騒JTCに理解を示し、多様な形で連携している様子が語られました。このうち綿引氏は「国も“刑罰だけでは薬物依存からの回復は難しい、依存症という病気を抱えた一人の地域生活者である”との認識に立って地域社会との連携を打ち出し、平成27年に(施策展開の)ガイドラインを策定した」として、新たな方向性の中で潮騒JTCとの連携が模索されていることを強調しました。

②では、岡田氏が潮騒JTCでの高まる学びのニーズをとらえ、夜間定時制に加え施設にしながら学習しやすい通信制の県立高校を紹介。安重氏はNPO法人として施設経営の安定化に向けた経済活動の充実を求め、ボランティア等による地域貢献やメディアへの積極的な発信、動画配信の活用を促しました。綿引氏は保護観察中の元受刑者が潮騒に定着できるよう地道な努力を求め、依存症の相談窓口を手掛ける鹿嶋市や潮来保健所でも「潮騒につながった人が回復するには(支え手となる)当事者スタッフの回復と育成が大事」(新山氏)、「多様化する依存症の実態から当事者に寄り添った丁寧な対応が必要」(田内氏)などの意見が出されました。

③については、「市行政としても関係機関や潮騒との連携をより強めたい」(田内氏)、「地域で受け入れられるよう引き続き地道な支援活動を」(新山氏)などの助言があり、「観察所のテレビ電話システムを使いながら、潮騒スタッフにも参加してもらって受刑者とのきめ細かな対応を図りたい」(綿引氏)、「違法薬物の使用は孤立の病である事は海外では常識、今後もやめるのではなくやめ続けるための取り組みを」(安重氏)、「過去のトラウマに囚われず、一人ひとり自信が持てる活動を」(岡田氏)との助言をいただきました。堅苦しくなりがちな会場の雰囲気をも、マーシーこと田代氏が得意のギャグを交えた本音のトークでほぐし、潮騒JTCの底流にある「愛」と「許し」の大切さを訴えました。

これを受け、栗原センター長が「今日いただいたご意見を尊重し、これにどう応えるか、まず私自身が考えます。人はどこからでも変われます。一人ひとりが“このままでは、このまま”ということに気づかなければ、結局は何も変わりません。60歳で回復の歩みを始めクリーン16年の私が先頭に立ちます。仲間の皆さん、(回復への)努力を惜しまず、私の背中に続けてください」と決意を述べ、初のパネル討論を終えました。(市)



フォーラムに参加した仲間の感想文

アキ

みんなが一致団結できたことは素晴らしい体験

私は潮騒 JTC に来て、今回が初めてのフォーラムでした。午前 10 時に開会式が行われ、「仲間の話」「活動 PV (施設紹介映像)」「潮騒の墓完成発表」とスケジュール通りに進みました。潮騒の PV「パブリカ」や潮騒エイサー隊(鹿嶋琉球太鼓)による「ミルクムナリ」「三線の花」の演舞があり、潮騒エイサー隊が踊る華麗な演舞を見ていると鳥肌が立ち、見とれ、感動しました。

今では私もエイサープログラムに加わるようになり、定期練習に励んでいます。誰よりもうまくなり、いつの日にか舞台に立ち、観客の皆さんたちを感動させたいです。そして、潮騒の入寮者やこれから潮騒に入寮する仲間と共に歩み、共に生き、共に回復していきたいと思っています。今回、フォーラムという貴重な時間を与えてくれたセンター長をはじめ、スタッフの仲間たち、そして下支えに関わってくれた各関係者の方々、本当にありがとうございました。フォーラムを通してスタッフや入寮者みんなが一致団結できたことは、私にとって素晴らしい体験でした。「仲間という“絆”を誇りに思えた」と心から思っています。

これから私が社会の一員として薬物を使わない日が来る生活を、いつまで送れるか…、先の事なので分かりませんが、自分の本当の居場所はどこなのか真剣に考えた時、それは潮騒ジョブトレーニングセンターだということが分かりました。だから、これからも潮騒 JTC にいます。仲間の皆様、私にそうしたスピリチュアルな気づきを与えてくれたことに感謝します。

イサ

とりあえず大きな失敗もなく 終わられてよかった

自分にとって2度目のフォーラムでした。1 回目は照明で、後ろで全体を広く見渡しながら見ていました。今回も照明の担当でしたが、特に照明を使う予定はないとのことで、プロジェクターで舞台の画面にモニターを映す作業になり、客席のど真ん中でフォーラムを見ながらの作業となりました。

ほぼほぼ打ち合わせがなかったため、ぶっつけ本番に近かったので結構大変でした。映すデータも当日の朝に受け取り、確認したら文字がずれてたので修正したり、映す DVD など本番で初めて映したのでこ

で終わるのかわからず、映像を終わったと思いストップしたら、マコトさんに「続きがありますので放送を」と言われ、あわてて続きをスタートしました。事前の確認不足でした。最初に失敗したので、その後は特にあわてることなく、タイムスケジュールをみながら冷静に作業できました。

午後は他の仲間も手伝ってくれ、タイムキーパーと一緒に座席の中央でフォーラムを見ました。何につけても事前の打ち合わせが大事だなと改めて感じました。それでも仲間の助けがあり、なんとか無事終われてよかったと思います。失敗が思いっきりお客さんや仲間たちの目に映る作業だと今になって思うと、結構失敗できない作業を任されていたんだと、後になってからプレッシャーを感じています。

とりあえず大きな失敗もなく終わられてよかったと思っています。今後があれば、準備段階でもうすこし打ち合わせをしておこうと思います。フォーラム自体はたいへんよかったと思います。

ブッチ

みんなが寝たら DVD で 自主練習をして頑張った

14 周年フォーラムで、エイサー隊メンバーとしてステージ上で旗持ちと太鼓で立つと決まり、終始不安がつきまわっていた。自分は正直、8 月にてんかんで入院していて記憶が少し飛んでいたからだ。いつもステージで素晴らしい感動や熱狂を与えているエイサー隊、その偉大で、優しい先輩たちと一緒に踊れるかどうか分からない…、とても不安な毎日だった。エイサーの着替えも一人ではまだできないし…。

そうした状態だったから、とりあえずナイトのみんなが寝たら DVD で自主練習をして頑張るしかないと思い、やり続けた。その際、映像に登場する先輩たちの演舞を見て、改めて深く感動した。施設で忙しい役割を担いながら、オファーを受けていろんな所でエイサー演舞を披露している仲間たちの姿に、その回復ぶりに、とても尊敬している。

自分はまだ、エイサーをはじめて 3 カ月。まだまだ地道に技量を磨いて、さまざまな人に感動を与えたい。フォーラムで踊って楽しんで、これからのステージ、色々なステージでさまざまな事を先輩たちに教えてもらい、エイサーのこともできるようになり、回復につなげていけるよう頑張りたい。これからもそんな先輩たちと一緒に、仲良くいい演舞を見せられるよう、そして感動を与えていけるようにしていきたい。

しま

何年かぶりに初めて早く切り上げ、 帰ることができた

私は長く“かまど”の仕事に関わっているため、近くの会場で行われているフォーラムのプログラム内容はほとんど分かりません。私たちのフォーラムは、朝から掃除、お弁当作り、フォーラムが終わったのち準備しておいた料理や飲み物など、来場してくださった方々をおもてなしすることが仕事です。以前は、他のダルクのエイサーチームと潮騒チームの迫力あるエイサーが観たいと、毎年思っていたのですが、最近諦めがつかしました。

準備、後片付け、遅くまで仕事は続きますが、それがかまどのフォーラムプログラムだと、誇りを持っています。でも今年は、後片付けが楽なように紙コップ、紙皿が使われました。さらにその後、片付けもスタッフの方々がして下さったため、何年かぶりに初めて早く切り上げ、帰ることができました。こんなに楽をしてもいいの!?! と思いましたが、次の日はやはり足腰、肩、足がガタガタです。疲れは毎年ですが、今年はちょっと楽ができたフォーラムでした。私たちが皆さんのお役に立てているのなら幸せです。

みく

今年は客席でゆっくり楽しく 見るすることができた

今年は例年の12月より早く14周年フォーラムがありました。私は、入寮1年目は客席で見学させて頂いたのですが、2年目からはクラフト販売を任されました。年を追うごとに女性ハウス「るみの家」の作業所では新しいものが増え、クラフトのバッグ、小物入れ、コースター以外に、ぞうざんタオル、ドレスタオル、ミサンガなど品数も豊富になり、とくに自分の作ったバッグや小物入れが売れると、うれしさもひとしおです。心を込めて作っているの、どんな人が使うのだろうなどと考えると、いっそう頑張れます。

私は、10月末日に肝臓がんの手術を受けますが、成功を祈っています。若い時からアルコールを飲み続け、40年近くも身体を痛めつけた代償だと思っています。施設長のはからいで、今年は客席でゆっくりフォーラムを楽しく見るすることができました。早く体を治し、バッグ作りに専念したいと思います。そして来年のフォーラムで売りたいです。プログラムでは午前の部の仲間の話、潮騒のエイサーに、午後の部の潮騒の墓、PVのパブリカ、私もちゃんと踊っていました。

難しいことはよく分かりませんが、潮騒JTCを応援し

てくれています方々のディスカッションも興味深かったです。そして最後に40名くらいいたのかな? 連合エイサーの迫力、なかでもジョブのエイサー隊が上手になっていて格好良かったです。

メーテル

「百寿」の映像の時に 自分の名前が出た!

私は就労支援で「百寿」で働かせて頂いているので、「百寿」の映像の時に自分の名前が出ていてうれしかったです。次に男性スタッフのメッセージがあり、次に女性ハウスのアキラちゃんのメッセージがあり、この時、息子さんも壇上に上がって、親子って素敵だなと思いました。同じシェアハウスの仲間の、のんちゃんのメッセージは本当に心を打たれるものでした。

そしてエイサー演舞が始まりました。本当にたくさん練習をしてきたんだろうと思わせる、キレイのある踊りでした。時間の関係で、1曲多く踊ってくれたのですから、その時、他のダルクの男性さんも加わり、いきなりでだいじょうぶなのかな? と思っていたのですが、全員が息ぴったりで本当に格好良かったです。昼食後に会場に入ったらもう午後の部が始まっていて、討論会もありました。最後にエイサー、他のダルクの人たちと合流で、午前の感じとはまた違い、これも本当にすごく格好良かったし、感動しました。

いるか

潮騒墓の完成で天国に行っても 仲間と一緒にになれる

今回のフォーラムは午前中から参加できて、とてもよかったです。私が特に印象に残ったのは潮騒の墓の完成発表の場面でした。私たちのたくさんの仲間が既に亡くなっていますが、その仲間たちためにお墓をつくってくれたことに、とても感動しました。私はクスリを使い続けて生きてきましたが、もう使わないために、今までの生活に戻らないために生涯、「るみの家」シェアハウスに居ようと決めています。

そんな私も、つくって下さったお墓に入るんだろうな、と思いながら話を聞いていました。何よりも私はこれからも一人じゃないんだと強く思いました。天国に行っても仲間たちと一緒になんだろうと思うと、もはや不安はありません。それと楽しみにしていたエイサーとても格好良かったです。ずーっと見ても飽きませんでした。今までエイサーを見てきましたが、皆さんとても成長してきているんだなあ、と思いながら見ていました。また来年も楽しみ。



県内外から参集した「よさこいソーラン」などのダンスチームが乱舞する神栖市恒例の踊りの祭典「第10回かみす舞(ぶ)っちゃげ祭り」(同祭り実行委員会主催)が先月21、22の両日、同市の神栖中央公園で華やかに開催され、参加した61組のチームが熱い演舞を披露しました。潮騒 JTC と千葉ダルクで活躍する沖縄伝統芸能の合同エイサー隊、「鹿嶋琉球太鼓」と「千葉ダルク琉球太鼓」は、エイサーの音楽に合わせた力強いパチさばきと一糸乱れぬ躍動感あふれる演舞で祭典を盛り上げました。

会場は昨年同様、同公園内に設けられた特設メインステージ会場と公園内散策路に設けられた東・西のパレード会場に加え、今年は6月1日にオープンした「かみす防災アリーナ」のメインアリーナを屋内演舞場とするアリーナ会場の計4カ所で行われました。そのほか、同アリーナ正面の和踊り会場では、フラダンスフェスティバルやバレエチームの発表会などが行われたほか、同アリーナ内では高校生による書道パフォーマンスや私立大成女子高校吹奏楽部(水戸市)による演奏会も開かれ、音楽ホールを利用したストリートダンス会場では多くのヒップホップチームがパフォーマンスを競い合いました。

「舞っちゃげ祭り」の「ぶっちゃげ」とは、神栖地域の方言の一つで、「壊す」とか「心を開く」などの意味で使われています。初めて開催された10年前、地域活性化と融和を目的とするイベント名としてこの方言に由来した名前が付けられました。当時、全国的なブームを巻き起こしていた「よさこいソーラン」を踊るチームを地元で作ったのがきっかけでしたが、今では6月に開催される北海道札幌市の一大イベント「YOSAKOI(よさこい)ソーラン祭

り」で活躍するチームや、8月に愛知県名古屋市で開かれる踊りのコンテスト「にっぽんど真ん中祭り」に出演するチームなど、全国の有力チームも多数参加する豪華なイベントになりました。

同祭りは21日を前夜祭、22日を本祭りとして開催され、両日ともに各チームが4会場で演技をする演舞スケジュールが組まれました。前夜祭当日は台風17号の影響により開催も心配されましたが絶好の祭り日和を迎え、賑やかに挙行されました。合同エイサー隊の仲間たちは、大勢の観客が見守る中、堂々の演舞を披露。大きな太鼓の音を会場いっぱいに響き渡らせました。昨年初めて参加した「鹿嶋琉球太鼓」の仲間たちは、あの感動を「千葉ダルク琉球太鼓」のチームにも味わってもらえたらと参加を呼びかけ、月1回の合同練習を積み重ねてきました。

この日、仲間たちは早朝に会場入りし、両チームそれぞれに揃えたエイサーの衣装に着替えて頭巾や鉢巻きを締め、各ステージの立ち位置を再確認するなどして本番に備えました。「鹿嶋琉球太鼓」には、今年から同チームに加わったカイトさんとブッチさんも少し緊張した面持ちで参加。同祭初日には、栗原センター長と原田事務長、元タレントのマーシー(田代まさし氏)のほか、デイケアや女性ハウス「るみの家」の仲間たち数人も応援に駆け付け、演舞が終わると盛大な拍手を送っていました。同ハウス施設長で「鹿嶋琉球太鼓」女性チームのルミさんは「この日に向けて練習を続けてきましたが、両チームともに息の合った演舞が披露できたと思う」と満足そうに話していました。(岩)

「かみす舞っちゃげ祭り」に出演したエイサー隊（男子）と、観客として参加した女性ハウス「るみの家」メンバーの感想文です。

千葉ダルクとの合同演舞で 迫力あるステージに

去年に引き続き、2回目の参加となりました。演舞を披露するという舞台の中でも規模が大きいイベントです。今回は千葉ダルクさんと一緒に参加させていただきました。千葉ダルクさんとは、この日に向けて何カ月も前から合同で練習をし、切磋琢磨してきました。いざ本番！今回は演舞するステージが4カ所あるということで気合いが入りました。各ステージ6分という持ち時間で1曲だけの演舞ですが、その1曲に、120%の力と気持ちを込めて叩きました。たった1曲ですがこれが以外にも疲れるもので、1日目が終わると身体は悲鳴をあげていました。1日目の最後に夜のメインステージでライトアップされた中の演舞は、とてもキレイで感激しました。あ、言い忘れてました。このかみす舞っちゃげ祭りは2日間あるんです。

2日目になると疲労とか身体の痛みとの闘いになります。が、不思議なことに演舞中はそんなことも感じず、むしろ楽しさと高揚感が勝り、2日目の最後のあたりになると、この祭りが終わってしまうんだという寂しささえ思いました。今回の舞っちゃげ祭りは千葉ダルクさんの協力もあり、去年より人数も迫力も違った演舞を見せることができました。本当に千葉ダルク琉球太鼓のメンバーには感謝です！

私自身、去年は緊張しっぱなしで参加していましたが、今年は緊張もさほどなく、楽しく参加することができました。もちろんミスもあり、完璧に演舞できたわけではないですが、このお祭りで仲間と叩けたことに胸が一杯になりました。千葉ダルクの仲間と練習や本番を通していろいろなものを感じ、話をして分かち合うことができました。エイサーを通して他のダルクさんと交流して、ここまで仲良くなったことは今までになかったことなので、本当に嬉しかったです。いつも一緒にやっている仲間にも「ありがとう！」と言いたいです。また来年もあると思うので、次もよりパワーアップした演舞を見せたいと思います。最後に一言、言わせてください……エイサー最高!! (リョウ)

「来年の祭りまで1年を切ってる！」 とリーダー

この日の為に、半年以上前から千葉ダルクさんと熱心に練習してきた。それだけに本番が楽しみでもあり、プレッシャーもあった。天候も雨の予報だったが、曇りになり外

でのメインステージで思いっきり叩いた。気づけば「アッ！」という間の2日間でした。終わってからのささやかな打ち上げの際、千葉ダルクさんの前でリーダーが一言、「皆さん、来年の舞っちゃげ祭りまで、後一年を切ってるんですよ！」ということで、来年も千葉ダルクさんよろしく。見守ってくださっている全ての人にありがとうございました。(エン)

潮騒と千葉ダルクの 琉球太鼓がひとつになった

「かみす舞っちゃげ祭り」は去年に続き2回目の参加でした。日本各地からよさこい団体が集まり、自分たちは「よさこい」ではなくエイサーという沖縄の伝統の踊りを演舞しました。今回は千葉ダルクの仲間と舞っちゃげ祭りに向けて練習を重ねて来ました。本番はみんなの思いも伝わり鹿嶋琉球太鼓、千葉ダルク琉球太鼓がひとつとなり、とても良い演舞を観客に披露できました。そして、自分だけなのか、新しい衣装をはじめて着ることで、気持ちがより一層引き締まり、120%のパワーで演舞でき、とても楽しかったです。千葉ダルクのエイサー隊とも仲良くなれて、二重によかったです。(ナカ)

仲間がアディクトの人たち とは思えなかった

「舞っちゃげ祭り」に行けることになり、楽しみにしていました。お子さんや年配の方も一生懸命踊っていて、輝いていました。仲間が踊っている姿、笑顔を見て、心が弾み、元気、勇気、楽しさをもらいました。カッコよかった。疲れているのに、毎日、練習を頑張っていたことを思い、人に少しでも、元気、勇気、楽しんでももらいたいと頑張っていてくれたのだと思いました。仲間がアディクトの人たちとは思えなかった。すごく輝いていた。人のために頑張り、何かをしたいと思う心、素晴らしいと思いました。

以前の私だったら、きっとお酒を飲みながら楽しんでいたいと思います。ここに来たときの私は絶望感でいっぱいでした。人は自分が無力と言うことを認め、自分を見つめ、自分を変えたいと思い、努力をしていると、本当に変わることが出来るんだ、と思いました。私は仲間からもっと変わりたいと思う気持ちを教えてもらい、勇気をもらえました。何もできない私だけど、人のために何かできることをさせていただきたいと思う気持ちを教えてもらい、勇気をもらえました。なので私も人のために何か出来ることをさせていただきたいと思いました。何よりも、お酒を飲まなくても楽しめることを教えていただき、感謝しています。(あさ)



くぬぎの森まつり

エイサー演舞と模擬店で潮騒のマンパワーを発揮

銚田市大洋地区の住民交流や地域の活性化を目的にした「第4回くぬぎの森まつり」が10月19日、同市上沢のくぬぎの森スポーツ公園多目的広場であり、熱いオファーを受けて初参加した潮騒JTCが、鹿嶋琉球太鼓(エイサー)演舞と模擬店を通して、まつりの盛り上げに貢献しました。同地区で市民スポーツの振興や健康づくり、コミュニティー活動を推進する総合型地域スポーツクラブ「NPO 法人・大洋スポーツクラブ」(味原俊男理事長)が取り組む地域おこしイベントで、同市の協働のまちづくり推進事業の支援を受けています。

このまつりは平成28年に同クラブ発足5周年事業としてスタート。大規模イベントとは違った色合いで、工夫を凝らした各種模擬店や子供広場、グラウンドゴルフの体験など、新旧住民や世代間の交流を楽しむ多彩なプログラムメニューを用意し、地域活性化に一役買っています。今回は、あいにく終日曇りがちの天候とあって来場者は例年よりも少なかったものの、各種イベントで鍛えられている潮騒JTCの仲間たちがマンパワーを如何なく発揮しました。

前日から当日朝まで雨が降り、模擬店の運営に不安がよぎりましたが、「決行すると英断を下した地域団体の要請に応えよう」という栗原センター長のリーダーシップで仲間が奮起しました。翌日は14周年フォーラム本番とあって、まつりに多くの人員を割くのが難しい中、スタッフや一部職員ら約15人が力を合わせ、模擬店では得意の焼きそばやフランクフルト、かき氷、

もつ煮込み、きな粉をまぶした揚げパンを格安で提供し、来場者に喜ばれました。フォーラムの準備や下支えで鹿嶋に駆け付けていた栗原センター長の長女と次女も支援に加わり、熱心な声掛けで販売に励みました。

一方、中央ステージではバンド演奏やフラダンス、よさこい、太極拳などが行われました。特別参加の鹿嶋琉球太鼓の舞台は、地域で目にする機会が少ないだけにひと際注目を集め、午前中の演舞1回だったものが急きょ午後にも行われ、色鮮やかな衣装と躍動感あふれる太鼓の演舞でステージを盛り上げました。

味原理事長は「この地区には移住者が多いのに、祭りや住民同士が集える場所も機会もないので新旧住民の交流のためにスタートし、だんだんと定着してきた。今回、最初は潮騒JTCの看板であるエイサーだけをお願いしたが、参加予定の模擬店が不参加となり困っていたところ、潮騒さんが“模擬店ならウチもお手伝いできる”と引きうけてくれた。フォーラムを翌日に控えているなかで、私たちの要請に応じてくれて本当に有難い」と話していました。

栗原センター長は「ここ銚田市には潮騒のナイト(宿泊)施設があり、銚田市にはお世話になっているだけに、こうした形で地域貢献できるのは意義深い。味原理事長には農業隊発足時から支援をいただいているので、きつい日程だったが協力できてよかった」と安堵(あんど)していました。(市)

受刑者 からの手紙

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す良い手本です。プライバシーに配慮し、掲載させて頂いています。

85歳の戦中派でも皆さんに負けまいと頑張る

(受刑者との文通窓口担当の)シゲさん、お手紙ありがとう。潮騒JTCで元気に頑張る、すでに4年2カ月が経過したとのことですが、今後も断酒続けて下さい。私も元気に頑張っています。シゲさん、私の年、分かりますか？ 堀の生活送る事9年になります。そして、まだ10年が残っています。でも、頑張ります。私の好きな格言に「精神というものは時々洗い清め、新しくつくろい直すことが必要である。忘却なくして幸福はあり得ない」があります。シゲさん、過去は忘れ、新しく生きることです。

実は私は、戦争を経験しています。私の夢は当時、土浦(阿見町)にあった霞ヶ浦海軍航空隊(予科練)に入る事でした。当時は、一億総玉砕が叫ばれていました。日本は男子一名残っても最後まで戦い抜く、と教えられて育ちました。なので8月15日の玉音放送を耳にし、天地がひっくり返るほど驚きました。なんと「神様」が話をしたのです。子供ながらビックリしたこと、今でも忘れません。夏休みが終わり、二学期が始まりましたが、それまでの教科書はほとんど墨で塗られ、まっ黒で読むところはありません。それでも本を持っている人は珍しく、私には二つ上の兄がいたので、兄の古本で勉強しました。

小学校高学年でしたので、将来の夢を失った私は学校で先生に食いつきました。「嘘を教えた」と。すると先生は私に国定忠治の話を聞かせてごまかしました。私は純情だったので「よし、これからは国定忠治のように生きる」と決心したのです。これを貫き、今日まで生きてきました。センター長同様、任侠道です。私は大和男子の矜持を持っています。弱きを助け、暴を諫め奉公至誠。世のため、人のためにつくる罪ならば、地獄の炎も我恐れじ、と。私は七人姉弟の長男でしたが、父に「私は戦死したと思ってくれ」と願い出たら、父も「よし、これからは好きなように生きろ。ただ、他人に迷惑だけはかけるな」と。母と姉は私が家を出ることを強く反対しましたが、結局、家出同様に群馬の片田舎から横浜に出てきました。港湾荷役の仕事をしてながら任侠の道を歩み、今日に至りました。不安はありません。敷島の和男子の行く道は赤き着物か？ 白き着物か？

私の獄中生活は通算すると50年、実に半世紀になります。苦労を楽しんでいます。9月3日で85歳になりました。残刑10年ですから、出所の時は95歳ですが、シゲさんたちに負けまいと頑張ります。

(神奈川県 O・Y)

刑務所の中で薬物依存症回復プログラムを受けている

シゲさん、お変わりなくお過ごしでしょうか。10月20日に鹿嶋勤労文化会館で開く潮騒14周年フォーラムの準備で、皆さん忙しい時期を過ごしていると思います。ぜひ、うまくいくことを心より祈っています。ところで今回は、刑務所の中で薬物依存症回復プログラムを受けています。今までは薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行き、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま出所して、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、初めて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みのようで、この取り組みによって少しでも再犯率が下がれば本当に素晴らしい事だと思っています。私の本当の戦いは出所してからです。この薬物という魔物と戦う力をかしてください。シゲさんと一緒に自分自身を変えて、新しい生き方をしていきたいと心から思っています。

(神奈川県 K・Y)

しおさい俳壇

10月のお題 さつま蒔

選者 桐本石見

特選句

茨城で
古郷の味
さつま蒔

マー坊

句の作者の古郷は何処だろうか。薩摩蒔(さつまいも)の産地は鹿児島、千葉、宮崎、徳島県が名高い。焼芋でも食べながら故郷を懐かしむ、古郷の味がする、しみじみした句。

特選句

酒を断ち
今は甘党
さつま蒔

シゲ

昔は酒好きで今の人生がある。その好きな酒を断ち、甘党になって今後の人生を生きる。決意と少しの俳諧の哀れの籠る句です。

特選句

薩摩蒔
思い出すのよ
終戦後

あべ

薩摩蒔は江戸時代に沖縄から薩摩に伝わり、青木昆陽や井戸平左衛門等により

特選句

幼き日
力まかせの
お芋掘り

れいこ

秋になると幼稚園などでは近くの農家へ芋掘りに行く。農家の人があらかじめ下掘した畝(うね)の蔓(つる)を引っ張る。男の子か、元気な声が聞こえる微笑ましい句です。

特選句

さつま蒔
一かぶ抱ける
園児かな

ユタカ

都会では特に田植や芋掘りが体験出来ないの、バスなどで出掛けて芋掘りなどをする。農家の人に教わり芋掘りをするが、蔓に連なる蒔を全部抱えて来る園児の姿も微笑ましい句です。

救荒作物として全国に広められた。昭和の戦後の食糧難の時も都鄙(とひ、都市と地方のこと)を問わず諸飯やお粥で命を繋いだとも言える。焼蒔、干蒔と共に懐かしく、また苦難の昔を思う句です。

佳作

夕風や焼けて匂いのさつま蒔	サイ	煮て焼いて揚げても旨しさつま蒔	カズ
この味の秋ぞと思ふさつま蒔	ミッキー	さつま蒔京で採れても紅あずま	ユキ
さつま蒔かすかに香る炉端焼き	アキヤマ	幼な日に母と掘りしよさつま蒔	リュウ
焼芋の落葉拾ひて皆囲む	しゅう	秋の夜やスイートポテトに妻思ふ	一郎
潮騒の焼芋ほこり旨かりし	イチ	鹿島路や干して飴色さつま蒔	のぶ
思い出すムショの日ごとの蒔の飯	ケン	ねっとりとおじやの甘さ薩摩蒔	ヒーサン
鈴虫が夜更けの窓に聞こえたる	タカシ	懐かしや園児と掘りしさつま蒔	ツカ
青天や皆で楽しき芋煮会	ゴロウ	さつま蒔焼いて故郷を語り合ふ	ぶっち

※今月は「俳句へのいざない」を休みます。

秀逸句

今月の秀逸句

さつま諸
焦げの苦さと実の甘さ

ヒロ

焼芋は皮が上手く剥(む)けるくらいに焼くのが良いが、案外に難しい。焦げは苦く中身は甘い、実感の句です。また広く言えば人の世も似たりかも。

焼芋は
後の楽しみ落葉掃き

ブルー

今では落葉焚きも余り見掛けませんが、昔は消防の規制も無かったので農家や寺の庭でも落葉焚きをして諸を焼くのが楽しみだった。懐かしい句です。

そろそろと
石焼き芋の月日かな

おまつちゃん

立冬の声を聞くと石焼き芋が懐かしいが、今は来ない。因みに焼芋屋は三百年前頃京都で始まり、大阪、江戸に広まったという。リヤカーは七十年前と伝わる。

茨城の
ブランド諸の紅あずま

オノ

昔は農林何号と言ったが、昭和六十年頃から如何にも美味しそうな名になった。

紅あずまは茨城県の名産の一つ。因みに、姫あやか、紅こまち、鳴門金時、など二十種以上の名があると言われる。

焼芋に
淋しき心ほつかほか

コバ

さつま諸は古来から庶民の救荒時の食べ物の思いがありますが、寒い時や気落ちの時に熱々の焼芋は身も心も温める。故郷の焼芋も懐かしい句です。

焼芋の
香り漂ふ駅の前

キユウ

この駅は何処だろうか。駅前には各種の店が在り、その匂いも懐かしい、昼時や夕方には、その香りに誘われてつい立寄る。少し郊外の駅の昼下りを思う句です。

三才の
息子のはしやぐ芋掘り日

しま

幼稚園か或いは家族の諸掘り日か、天気も良く元気にはしゃぎながら出掛ける声が聞こえるような句で、前日もまた待ち遠しく楽しい。

野末道行く先々の女郎花	ヨイチ	焼芋をほおばりつつも煤落し	レモン
焼芋を食むや彼女と熱々と	アオ	栗きんとん思いを込めて父母へ	あさ
団樂に母の味なるさつま諸	エビケン	幼な日の諸掘り大会思い出す	マコ
婆ちゃんの作るイモ天おいしいな	ゆうこ	さつま諸ほおばる子等のうわき声	のん
さつま諸その酒味に和が生る	ゆーみん	焼芋のトラック来る駆け出しぬ	あきら
さつま諸姉と仲良く半分に	めい	さつま諸皆で食べて笑顔かな	みつちゃん
北国に囲む焚火や諸を焼く	みく	さつま諸いよいよ秋の思いかな	くま
焼芋の温さ甘さに癒さるる	なん	久方の握手強きや敬老日	ゆたか

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「アル中のアサヒ」の巻

特別編

エイサー太鼓と指笛が私の回復を支える

アルコール依存症のアサヒです。私は今、潮騒JTCでエイサー隊(鹿嶋琉球太鼓)に所属しています。担当は大太鼓、メインは締め太鼓を叩いています。エイサー隊に入り、もう7年目になります。太鼓を「叩き」、演技を「披露する」たびに、新たな発見があります。改善点も見つかり、今では公演が待ち遠しく感じられるようになりました。「もっと力強く」「もっと上手に」を心掛けて定期練習に励んでいます。大変面白い半面、とても疲れます。始めた1年目はエイサーと自分の回復が上手く合致せず、精神的にも肉体的にも疲れ果ててしまい、何度かスリップ(再飲酒)を繰り返しました。

しかし、「このままではいけない」と自分の回復を信じてエイサー隊に身をゆだね、しゃにむに練習に取り組みました。すると2年目を過ぎた辺りから、「アサヒが一番うまいな」と評価されるようになり、恥ずかしながら自分が受け入れられたという感動で、アルコールが止まりました。

私の自慢はエイサーの花形といわれる指笛です。この指笛が吹けるようになるまでには大変苦労しました。口の乾き具合、指の角度、息継ぎ、すべてマッチしないと良い音が出ません。私は指が荒れ、唇が割れるまで練習しました。ある時ふっと、楽に吹けるコツというのが分かってきて、今では自在に吹けるようになりました。ここは依存症の回復と似ているように思います。肩の力を抜き、ありのままの自分を受け入れる…。「できなくてもいいじゃないか」「下手でもいいじゃないか」「ありのままやろう」。こんな気持ちが指笛に表れたのかもしれません。スピリチュアルな経験でした。

先日、神栖市にある母里(もり)というデイサービスにおじゃましました。ヘルパーの私としては、ちょっと特別な舞台でした。過去いろいろな介護施設で叩いていますが、いつも「潮騒エイサーはお年寄りの皆さんに受け入れられるのだろうか?」と不安になります。しかし、母里のお年寄りの皆さんは依存症の私たちを温かく迎え入れてくれて、たくさんの拍手と感謝を頂きました。そこには理屈を超えた深い感動がありました。エイサーを通して心が通い合ったのです。利用者の皆さん、ありがとうございました。私は今後も、自分自身の回復のためにエイサーを続けます。

10月のバースデー

アオ



無我夢中で
走ってきました。

キーちゃん



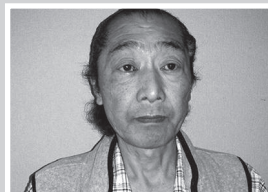
これからもよろしく!

マヒト



去年は旅行に
行っていました。

タカク



お陰様で誕生日を迎える
ことが出来た。

ハギ



ただ今研修中

カタ



少しだけ優しく。

マサ



愛すべき仲間です。

ナオト



幸せでありますように。

10月の行事

- 10月13・19日 秋元病院メッセージ
 10月10日 潮騒俳句会
 10月19日 くぬぎの森まつりエイサー演舞
 (銚田市)
 10月20日 潮騒JTC14周年公開フォーラム
 10月26・27日 第29回鹿嶋まつり
 (県立カシマスタジアム周辺)

11月の行事予定

- 11月2・3日 第13回て〜ら祭
 (鹿嶋市まちづくり市民センター)
 11月5日 しおさい寺子屋食堂オープン
 11月10・16日 秋元病院メッセージ
 11月14日 潮騒俳句会
 11月24日 潮騒家族会

14周年公開フォーラム献金

(順不同、敬称略)

橋本八重子、根本芳光、幸友住宅、ケイアンド
 ジー企画、ケージーコーポレーション、大川税理
 士事務所、(有)大洋土づくりセンター、だるま食
 品(株)、(有)木川政石材、本間歯科第二診療所、
 サロンドリラ、BooBu、石川商事、吉田明、ハ
 アーサロン木川、大和ハウジング、松信 昌栄、
 佐藤 浩、増古測量、川島 有紀、鹿嶋山地蔵
 院、柏崎精肉店、佐原信用金庫、栗原宏、富井俊
 明、富井建夫、家族会一同、下里光雄、佐久間
 修、高田武義、小林久祐、佐藤絹代、今野正男、
 高橋ふく子、横山三次、上田礼子、石井照明、鈴
 木浩二郎、金田崇作、北村ますみ、千葉ダルク、
 川崎ダルク、相模原ダルク、茨城ダルク、(株)百
 壽、長崎ダルク、桐本石見、岡部、大原、金島、青
 野、関、足立(その他、匿名の方々)

編集後記という名の独り言

今号でコラム風の編集後記は終わります。▼寄る年波には勝てず、あちこち体にガタがきて、僕も本紙の編集作業がきつくなりました。我が内なる声も「そろそろ踏ん切りをつけよ!」と促し、ちょうどよい退任の潮時となりました。▼振り返ると僕は、栗原センター長と潮騒 JTC から言葉に尽くせぬほどの恩義を頂き、仲間の皆さんからはいろんなことを学ばせてもらいました。世間の規格から外れ、世をすねた生き方をしてきたので、僕の書くものは自己主張が強かったかもしれません。懐の広い潮騒 JTC だからこそ、それが許されたのだと思います。感謝です。▼さて、これから残り少ない人生を、どう有意義に過ごそうか思案しています。本欄でも何度か書きましたが、僕には重いダウン症の長男がいます。28歳になるこの長男が、今もって言葉を持ちません。なので、長く言葉で飯を食ってきた僕にとっては、最も身近な批判者であり、手強い存在なのです。「父さんの書くものなんて実はたいしたことないよ」と、文字通り無言で圧力を掛けてきます。▼「外では偉そうなことを書いても、家では息子のことすら分かっていないじゃないか」と。その度に僕は言葉の限界というか、無力さを思い知らされます。言葉なんて実は人間にとって、ほんの部分的なものにすぎない。もっと大事なものがあはずだ。言葉で人間をとらえ切れると思うのは、なんてごう慢なんだ、と。言葉では救えない沈黙の世界にと教えてくれます▼こう書くと、なんと苦悩に満ちた家庭なんだと思われそうですが、日々の営みはいたって平凡です。ふだん親子関係に「障害」の困難が入り込むことはほとんどありません。紙オムツを外し、ところかまわず排便や排尿をされ、油断すると冷蔵庫をあさって開けっ放しにされますが、これも2歳児程度の知能指数の「悪戯」と思えば納得できます。▼問題は、コミュニケーション不全によるストレスで突然の自傷行為(拳で頭やあごを殴り続ける)に及ぶことです。何が不満なのか、何か問題なのか…、ほとほと手を焼きます。でも、そのシグナルには依存症と同根の因子があります。依存症も「自傷の病」だけに、僕は潮騒JTCからは離れても問題意識は共有できると考えます。今度は一市民ボランティアとして外側から潮騒JTCを支えられたら、と思います。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2019年10月**Contents**

- P ② 「公開市民講座」(仮称)に取り組みます
 P ③ 潮騒 14 周年フォーラム
 テーマ「共存、共生、歩み寄り」
 ・フォーラム初のパネル討論
 ・仲間の感想文
 P ⑧ かすみ舞っちゃげ祭り
 潮騒&千葉ダルク合同エイサー
 P ⑩ くぬぎの森まつり
 エイサー演舞と模擬店
 P ⑪ 受刑者からの手紙
 P ⑫ しおさい俳壇 10月のお題「さつま蒔」
 P ⑭ どっこい私も生きてます特別編「アル中のアサヒ」の巻 / 10月のパースデイ
 P ⑮ 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次

**■ 編集・発行：**

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館
 (潮騒アディクション・ケアセンター)
 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4-4-5
TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール **k.s-darc@orange.plala.or.jp**ホームページ **http://shiosaidarc.com/**



共存
共生
歩み寄り

